

泉南市6次産業化及び地産地消を推進するための戦略

令和3年3月31日 策定

1. 泉南市の概要

本市は大阪府の南部に位置し、南は和泉山脈、北は大阪湾に面している。北東は樫井川を境界として田尻町・泉佐野市に、南西は男里川を境として阪南市に、南東は和泉山脈を境に和歌山県岩出市・紀の川市に隣接している。市域の面積は 48.98 平方キロメートルであり、関西国際空港の南部約3分の1を市域に含んでいる。

幹線道路として、国道 26 号や阪和自動車道、府道泉佐野岩出線があり、鉄道駅としては、JR 阪和線の和泉砂川駅と新家駅、南海電鉄南海本線の樽井駅と岡田浦駅があり、これらの利用によって大阪都心部へは 1 時間弱、関西国際空港へは 30 分弱で、また和歌山市へは 20 分から 30 分で到達することができる。

2. 泉南市の農漁業及び6次産業化についての現状と課題

(1) 農業

本市では古くから換金作物の栽培を中心とした商業的農業が発達しており、現在も府内有数の農業地域となっている。農産物は、玉ネギ(作付面積約 19ha)・里芋(作付面積約 7ha)・キャベツ(作付面積約 21ha)などの野菜が中心で、施設園芸では水ナス・トマトなどが生産されており、大阪都市圏の生鮮野菜の供給地として都市近郊農業が営まれている。また、花き栽培においても高い技術力をもち、全国的に高いシェアを占めている。

本市の農業構造については、近年、急激な都市化の進展にともなう農地の減少・住宅地の隣接などにより、営農条件の悪化が懸念されている。営農面では、専業農家・第 1 種兼業農家の構成比が府平均より高く、積極的な営農意欲をもつ農家が多いものの、経年的に第 2 種兼業農家の構成比が増加しており、新規就農者の減少、担い手の高齢化が進んでいる。

また、農業就業人口の高齢化及び減少に伴って、農業後継者に継承されない又は担い手に集積されない農地で一部遊休化したものが近年増加傾向にあることから、これを放置すれば担い手に対する利用集積が遅れるばかりでなく、周辺農地の耕作にも大きな支障を及ぼすおそれがある。

現在、市内には農産物直売所が設置され、「水ナスの浅漬け」「タケノコの水煮」「梅干し」などが近隣の生鮮野菜とともに販売されており、地産地消に関して販路の拡大が進められているが、都市部への販路拡大や地場産品の PR などについての課題がある。

(2) 漁業

本市は大阪都市圏の郊外に位置し、前方には関西国際空港、淡路島を望み、2つの漁業組合を有し

ている。小型底びき網漁業、船びき網、アナゴ籠漁業等の漁船漁業により四季折々に様々な魚介類が水揚げされ、ワカメやアナゴの養殖業も行われている。

近年、漁師の高齢化、後継者・若手不足、漁獲量の減少、魚価の低迷に加え燃油料の高騰や漁具関係物品の価格上昇による漁業経営をとりまく環境が非常に厳しくなっている。また、消費者の魚離れ、魚食文化自体の劣化といった実態も浮かび上がっている。

そのため漁業者は体験漁業などの観光漁業への取組などにより消費者との交流をとおして漁業振興に繋げる取組を行っているが、6次産業化、地産地消へ向けて販路拡大及び地域ブランドのPRを推進していく必要がある。

3. 現状と課題を踏まえた6次産業化の取組方針

(1) 泉南市6次産業化推進協議会の設置

本市における6次産業化を推進するため、泉南市6次産業化推進協議会を設置し、6次産業化に取り組む農漁業者を支援する。

泉南市6次産業化推進協議会
・大阪泉州農業協同組合
・大阪府泉州農と緑の総合事務所
・泉南市商工会
・泉南市観光協会
・泉南市農業委員会
・樽井漁業協同組合
・岡田浦漁業協同組合
・泉南市市民生活環境部産業観光課

(2) 人材の発掘及び育成

国版認定農業者、大阪版認定農業者及び意欲的な農漁業者を中心に、6次産業化に係る制度や支援体制等の周知に努める。また、担い手の育成を進め、6次産業化への取り組み意向のある農漁業者の発掘及び育成に努める。

(3) 大阪産(もん)6次産業化サポートセンターの活用

大阪府では、府内農林漁業者等の6次産業化への取り組みをサポートするため、「大阪産(もん)6次産業化サポートセンター」を設置しており、大阪府内の農林漁業等について専門知識を持つスタッフを配置し、6次産業化を支援する体制を整備している。

本市において、農漁業者からの相談があった場合は「大阪産(もん)6次産業化サポートセンター」を積極的に活用する。

(4)ふるさと納税返礼品への展開

本市ではふるさと納税返礼品として578種類の記念品を登録している(令和3年2月末時点)。今後、6次産業化により誕生した加工品等については、ふるさと納税返礼品としての活用を推進し、販路の拡大及びPRにつなげる。

(5)イベント等への参加促進

市内外のイベントへの参加、農水産物加工品の販売を促進し、PRを行う。また、交流会や研修会への参加により、農漁業者が6次産業化に必要な知識の習得や知見を深めることを促進する。

4. 今後の6次産業化推進の成果目標

大阪府6次産業化ネットワーク活動推進事業補助金等を活用し、商品開発や販路開拓等に取り組む農漁業者数を以下のとおり増やすことを目標とする。

令和2年度 0名 ⇒ 令和6年度 3名

5. 地域の特性を生かした農水産加工品の開発及び生産

農漁業者の所得向上及び産地振興に資するため、以下の表に掲げる農水産物や加工技術等を活用し、商品開発や販路開拓を目指す農漁業者を支援する。

農水産物名
水ナス 玉ネギ 里芋 花き タケノコ ワカメ アナゴ エビ類 タコ 等
加工品の種類
漬物 煮物 梅干し オリーブオイル漬け ジャム 菓子類 調味料 飲料 等
加工技術等
使用する農水産物の特徴を生かせる加工技術を選択する。 例：ぬか漬 液漬 乾燥 水煮 佃煮 一夜干し 冷凍 フリーズドライ 燻製 等
販路開拓
直売所 レストラン ホテル 量販店 インターネット販売 ふるさと納税返礼品 等

6. 6次産業化事業体の将来像

本市の農漁業においては、後継者不足等の問題があるため、意欲的な農漁業者が6次産業化に取り組み、行政や関係団体が連携し支援することで、本市の農漁業をけん引するリーダーとなることを目指す。また、都市近郊型の農漁業が営まれていることを踏まえ、全国流通を視野に入れ、6次産業化に取り組むことで、特産物の価値が向上することを目指す。

7. 6次産業化に取り組む農漁業者を支援するための施策等

大阪府と連携しながら、以下の施策等を活用し、6次産業化に取り組む農漁業者を支援する。また、以下の施策以外にも、6次産業化の推進に必要な施策がある場合は、それらも活用する。

活用する施策
・大阪府6次産業化ネットワーク活動推進事業補助金(国・大阪府)
・大阪版認定農業者支援事業(大阪府)
・小規模事業者持続化補助金(全国商工会連合会)